

第一回串本町紙上短歌大会入賞作品

特選

○初めてのラインは子等とつながりて変化なき日の変化楽しむ

中西 みよ子

○トルコ艦災禍の事も遙かにて檜野灯台夜霧にうるむ

清水 円

○福定の銀杏大樹の雲を突く四百年の遙けきいのち

杉若 喜代香

○初任地の島影見ゆれば今もなお柳行李と行きし日惚ぶ

石垣 実男

○狼煙^{のろし}場跡の石積み残る山頂に俄か開けり紺碧の灘

引地 貞子

秀作

○逝きし息の五十回忌の一つ鐘余韻の中に秋風の過ぐ

上田 明子

○二千円背中のリュックに忍ばせて三歳なれど我引き揚げ者

奥村 文子

○竹筒に寒の椿を活け飾る亭主九十の茶室に集ふ

野入 博史

○微かなる音に鳥翔ち木の実降る河内の杜はしづけさに在り

清水 雅昭

佳作

○僅かなる水平線の円みより地球を感じつ望楼に佇つ

津田 ちあき

○幾つもの元号越えて無住寺に老いて艶増す公孫樹散る

岩本 政明

○亡き夫の雲の色したセーターが雨雲となり私を濡らす

濱 甲

○お茶の間の柱に記しし子の背丈嫁が引きつぎ孫達計る

田中 掬代

○知らぬ間に空気を入れてくれし夫自転車こぎて優しさ知りぬ

前田 より子